

文学部 日本文学科【学位授与の方針】

文学部日本文学科は、定められた課程を修め、以下の学習成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。

< 教育研究上の目的（理念・目的） >

日本文学科は、研究目標を世界文学における日本文学の持つ普遍性及び特殊性について実証的に考究することに置き、教育目標を日本文学科に学ぶ学生の自己実現をサポートし、伝統的な価値観を踏まえつつ多様化する社会に建設的に関わることのできる有為な人材を養成することに置く。これらの目標実現のために、言語表現学科及び歴史文化学科との連携の下、古典籍を含む資料の収集を段階的に図り、また、文学事跡の实地踏査を行う等実物に即した教育研究活動の実践に努める。

< 学習成果（教育目標） >

1. 日本文学の歴史的変遷について理解し、説明することができる。
2. 日本文学と世界の他地域の文学との関わりについて理解し、説明することができる。
3. 日本語の口語や文語に関する正しい知識や文字を習得し、上代から現代までの各時代の文学作品を正しく読み解くことができる。
4. 日本文化の諸相について理解し、説明することができる。
5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
6. 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、心理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。

文学部 言語表現学科【学位授与の方針】

文学部言語表現学科は、定められた課程を修め、以下の学習成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。

<教育研究上の目的（理念・目的）>

言語表現学科は、高度情報化社会における日本語による多様な表現活動及び日本語文化全般を研究対象とする。現代メディアの状況を踏まえた「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を通して、情報を正確に理解した上で、的確な美しい日本語で自身の考え又は思いを表現・発信できる能力の養成を教育上の目的とし、日本文学科及び歴史文化学科との連携の下、その能力を高度に発揮して表現活動の第一線で活躍できる専門家を始め、優れた日本語運用能力・コミュニケーション能力によって社会に貢献できる人材を養成する。

<学習成果（教育目標）>

1. 日本語および日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識と理解を、体系的な形で有する。
2. 「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。
3. 言語によるすべての表現に対して健全な批判的精神をもって接することができる。
4. 従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画など、言語による表現を伴う幅広い分野について、それらを学問的对象として捉え、客観的・科学的に観察・分析することができる。
5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
6. 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、心理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。

文学部 歴史文化学科【学位授与の方針】

文学部歴史文化学科は、定められた課程を修め、以下の学習成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。

<教育研究上の目的（理念・目的）>

歴史文化学科は、日本史学及び日本民俗学を中心とし、かつ、宗教学、社会学、地理学等のうち歴史的なアプローチを行う上で隣接する学問分野を研究対象とする。日本の歴史について正確な知識を有し、地域の歴史遺産及び人々の営みの歴史的多様性に敬意を抱くことを教育上の目的とし、歴史の知識を糧としつつ現代の諸課題に実証的態度で向き合い、心豊かな社会の建設に貢献できる人材を養成する。そのため、日本文学科及び言語表現学科との連携の下、史料調査、実地踏査等実物に即した教育研究活動の実践に努める。

<学習成果（教育目標）>

1. 歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。
2. 古代から近現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。
3. 日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。
4. 地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断の基にその保存や活用に貢献できる。
5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
6. 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。